

## 令和4年度第1回白石町総合教育会議 会議録（要旨）

1 日時 令和4年12月22日（木） 9：30～10：30

2 場所 白石町役場 3階 大会議室

3 出席者 【構成員】

白石町長 田島健一  
教育長 北村喜久次  
教育長職務代理者 松尾博之  
教育委員 堤王宏  
教育委員 川崎姿子  
教育委員 一ノ瀬ひとみ（欠席）

### 【事務局】

副町長 百武和義  
企画財政課長 坂本博樹  
企画財政課 課長補佐 山下将史  
企画財政課 政策調整係長 溝口篤  
企画財政課 政策調整係 主任 川崎明  
企画財政課 政策調整係 主事 大隈彩子  
学校教育課長 出雲誠  
主任指導主事 梅木純一  
学校教育課 課長補佐 永石敏  
学校教育課 課長補佐 吉村浩  
指導主事 下平博明  
学校教育課 教育総務係長 川畑徳人  
学校教育課 新しい学校づくり係長 池田敏雄  
学校教育課 新しい学校づくり係 主任 石隈あつみ  
生涯学習課長 谷崎孝則  
生涯学習課 課長補佐 永尾宗紹

【傍聴者】 3名

4 会議次第

1 開会

2 町長挨拶

### 3 議題

- (1) 白石町立小学校再編計画（案）について
- (2) その他

### 4 閉会

《以下議事録本文》

#### 1 開会

##### ○山下企画財政課長補佐

ただいまから、令和4年度第1回白石町総合教育会議を開始する。

最初に総合教育会議の意義・位置づけについて確認のため説明する。

この会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定に基づき設置する。その趣旨として、町長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的とする。位置づけとしては町長と教育委員会という執行機関同士の対等な協議と調整の場としている。会議は町長が招集するが、教育委員会はその権限に属する事務に関して協議する必要があると思われるときは、町長に対し、協議すべき具体的事項を示して、会議の招集を求めることができることとなっている。

続いて、田島町長から挨拶をお願いする。

#### 2 町長挨拶

##### ○田島町長

みなさんおはようございます。本日は令和4年度第1回白石町総合教育会議にご出席いただき誠にありがとうございます。教育委員会の皆様方には日頃から本町の教育行政に関して並々ならぬご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げる。

さて、中学校再編については、令和6年4月新中学校の開校に向けて、新しい学校づくり準備委員会による様々な協議・決定、また、校舎の増築・改築工事と、着々と準備が進んでいるところである。

そして、本日の協議事項である小学校再編だが、ご承知のとおり、先日の12月議会において一般質問があった。町の方針について、新聞報道もなされたところである。答申を受けた後における想定を上回る少子化の進行等の大きな変化を踏まえて、今一度検討を行う必要性を感じた。少子化が学校再編を進める大きな要因の一つであるが、根本にある少子化対策を含めたまちづくりを考えなければならぬのではないかと。まちづくりと学校は、大きく関係するものである。そういったところから、教育委員会や関係各課にそこを踏まえた検討を行うよ

うに、指示を出し、私自身も考えてきた。1校・2校・3校それぞれの案について、まちづくりと教育環境を考慮して、今一度検討を行ったところである。まちづくりの観点としては、地域コミュニティの核としての小学校の存在、子育ての利便性、町の国土利用計画における生活拠点ゾーンとしての有明・白石・福富地域に、それぞれ小学校が存在することなどを考慮した。また、学校づくりとして、これまで推進してきたコミュニティスクールをさらに充実させ、地域を挙げての確かな教育の基盤固めを行うことが、子供たちの成長のために重要であると考えた。今現在、小学校再編計画の素案を作成したところであるが、その過程では教育委員の皆様からも多くの意見や知恵を出していただいていることと存じる。

本日は皆様と小学校再編について協議を行うことで、本町のより良い教育環境の整備につながることを望むところである。時間も限られているが、どうか最後までよろしくお願ひしたいと思う。

○山下企画財政課長補佐

それでは、本日の協議事項に入る。

議事については、白石町総合教育会議設置要綱第4条第3項の規定により、町長に議長を務めていただく。

○田島町長

それでは、議題（1）白石町立小学校再編計画（案）について、事務局より説明をお願いする。

○北村教育長

担当の説明の前に教育長として一言ご挨拶を兼ねて発言させていただく。

小学校の再編については、いわゆる8カ村にそれぞれ1つずつ小学校が存在する時代がおよそ150年という歴史がある。これを大きく変えるということでは身の引き締まる思いをしている。皆様ご存じと思うが、これまでの流れを駆け足で振り返ってみたいと思う。

令和元年度に統合再編審議会にて1年間審議をいただいた。その審議会にて、学校の適正規模は12～18学級（学年でいえば2～3学級）、学校数は2校で、有明地域で令和8年に3小学校、白石地域で令和10年に5校を再編するのが望ましいという答申をいただいた。その後、先ほど町長挨拶にもあったように、急激な少子化が進行してきた。教育委員会としては毎年のおおむね140人程度と見込んでいたが、令和2年度のおおむね103人であった。その中で須古地区は3人。本年度ではおそらく100人を切る見込みである。そんな急激な少子化

の中では、答申は受けたが 1 校案を考えざるを得ないだろうというのが自然と出てきた。

現段階では令和 8 年度で小学生がおよそ 900 人、令和 12 年度でおよそ 700 人という見込み。そんな規模なので 1 校に再編することは答申の適正規模に大きく反する。しかし、少子化の傾向からすると、しばらく待てば適正規模に近づくのではないかという考えも当然出てくると思う。その間に審議会ではまだ見えていなかった「複式学級の出現」というのが出てきた。令和 9 年度に有明南小学校、10 年度に須古小学校、11 年度に北明小学校で複式学級の発生が見込まれる。複式学級はとても適正な教育環境とは言えないので、できる限りこれを避けたい。単独校では厳しいため、なんとか統合をしなければならない。ということで、教育委員会でも、まだ公表できる段階ではないので秘密会議で協議し、その結果を町長に相談をして進めてきた。その中で小学校が持つ多様な機能、例えば地域コミュニティとしての核というものがある。いずれ 1 校にする、という考えも将来出てくるかもしれないが、それまでは、町長の話にもあったように、まちづくりと小学校の持つ地域コミュニティとしての核という機能を考慮して、今後のまちづくりをどう進めるかということも総合的に考える必要がある。ということで、町の生活拠点としての 3 地域、有明・白石・福富地域にそれぞれ小学校を置く、コミュニティの核あるいは子育ての利便性、ということで素案を考えてこれまで議員説明会や全員協議会で説明を行い、12 月議会でも一般質問をいただき、その旨の回答をさせていただいた。

今日は、これまで素案という形であったが、これを町長と教育委員会で十分協議をして、案とした形にし、その案をもとに、住民説明会・パブリックコメント、それを受けての議会への報告を進めていきたい。そのうえで忌憚のないご意見がたくさん出されることを願っている。ということで本日もよろしく願います。

#### ○出雲学校教育課長

それでは、私のほうから説明を行っていく。教育長からも話があったが、これまでの経緯と今後の流れについて今一度確認させていただく。

11 月 30 日に臨時教育委員会を開催し、その後全員協議会、それから 12 月議会での一般質問を経て、本日の総合教育会議という形になっている。今日の総合教育会議で教育委員会より承認をいただければ、住民説明会、パブリックコメントへと進めていきたい。

全員協議会では主な意見としては審議会委員さんたちへの配慮という話が出ている。そのため、私たちの方でも審議会委員さんを訪問するなどして説明を行っていきたくと考えている。12 月議会の一般質問では、審議会の答申を尊重し

ない理由は、と質問があった。これについては、先ほど教育長が話をした通り、急激な少子化の進行により適正規模を考えると将来は1校ということも見据えておかなければならない、しかしそれまでは、ということでまちづくりの観点からも、国土利用計画の生活拠点ゾーンとしての有明・白石・福富地域のそれぞれに小学校が存在することが必要ではないか、と判断しての答弁をしたところである。それから、福富小学校を残すという地域性による方針は、町長によるリーダーシップのもとでの判断と解釈してよいか、と質問があった。これについても、町長の挨拶にあったが、この方針を打ち出すにあたり、私を含め、町長や教育委員会、関係部局が議論を重ね、それぞれが責任をもって出した方針である、しかしながら「学校の設置者である町長の私がより一層の責任を持つものと考えており、子供たちや白石町の教育を真剣に考えて出した結論である」と答弁された。もう一つ、白石地域の新設小学校の開校は答申では令和10年度であったが、12年度に遅れる理由について質問があった。白石地域の新設小学校については、新たに用地を取得する必要がある。用地の買収をすると地権者のご理解が必要で、また、今後基本構想や基本計画等を作成していくが、それらができてから用地の取得、造成、建築工事という流れになり、スケジュールを改めて検討した結果、令和10年度の開校が厳しいものであると考えた、と答弁した。

それでは白石町立小学校再編計画（案）をご覧ください。

12月の教育委員会でも説明を行っているため、かいつまんで再度説明を行う。  
3 ページの97行（2）計画期間に、「本計画は、将来の展望を示しつつ令和5（2023）年度から令和12（2030）年度までの8年間とします。」と記載がある。これは最後の白石地域新設小学校の開校までと考えている。104行の2「小学校再編の必要性と基本的な考え方」ということで、「学校は、単に知識を習得する場所ではありません。社会において、自立的に生きる基礎を培い、国や社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養う場所でもあります。」と書いている。

4 ページ121行目に「児童の心身ともに健やかな成長を第一に考え、再編を行うことで、一定の学校規模を確保することが必要であると考えています。」というようにまとめている。続いて「（2）複式学級の回避について」は、再編計画通りに進めていっても複式学級が出現するおそれがある。130行に「再編前に複式学級が出現する場合は、人的配置を含めた、よりよい教育環境の確保に努めます。」と書いている。

5 ページ145行「（4）まちづくりの観点からの小学校の存在について」は、これまでの教育委員会でもまちづくりについては協議の話題としていたが、表現として明確に表していなかった。そのため、今回改めて追加している。「町内の8つの小学校がこれまでもそうであったように、小学校は中学校に比べ、「地域コミュニティーの核」としての性格が強い存在です。また、本町の国土利用計

画に示されているとおり、生活拠点ゾーンとしての白石地域、福富地域、有明地域については、今後の有明海沿岸道路の計画等も踏まえバランスのとれた発展を図っていくことは、本町のこれからのまちづくりの観点として極めて重要です。さらに、子育ての利便性など住みやすいまちづくりの観点も欠かせません。学校規模の適正等と併せて学校が持つ様々な機能にも十分に留意し、地域づくりや地域の活力にも繋がるような「地域とともにある学校づくり」を進めていく必要があると考えます。」と書いている。

続いて3 白石町の目指す小学校像ということで、「(2) 目指す小学校像」と書いている。「ア コミュニティ・スクールの更なる推進と充実」「イ 小・中9年間を見通した発達段階に応じた学びの展開」「ウ 多様な学び場の保障」というように考えている。

それから4 小学校再編の概要ということで、8校を3校に再編するということを書いている。「○須古、六角、白石、北明小学校の4校を1校に再編する。「白石地域新設小学校」○有明東、有明西、有明南小学校の3校を1校に再編する。「有明地域新設小学校」○福富小学校は現状を維持する。」と書いている。8ページ「(5) 自由校区の検討」「各小学校の通学区域の境界に当たる地域については、通学距離等を踏まえ、自由校区の設定について検討します。」と述べている。

それから9ページ294行5 小学校再編の具体的な方策というところで、(1) 有明地域新設小学校について、開校の時期を令和8年4月1日に開校としている。学校の位置として、現在の有明中学校の校地を学校の位置とすることとしている。10ページ319行(2) 白石地域新設小学校について、開校の時期は令和12年4月1日に開校としている。学校の位置として、適地を検討し、新たに用地を取得し新築することとしている。11ページ339行(3) 福富小学校については、現状を維持し、校舎、設備等を整備して教育環境の充実を図るとしている。

6 小学校再編の今後の展望というところで、352行「魅力的なまちづくりを行うことで、本町で子育てをしたいと思う若い世代が増えることを望みますが、今現在での児童数見込を考慮すると、現時点では、白石町立小学校は将来1校に再編することを見据えておかなければなりません。」とまとめている。ここまですが計画書となる。計画書を作る元となったデータと課題等を参考資料ということで、13ページ以降にまとめている。こちらについては割愛する。説明は以上とする。

○田島町長

ただ今の説明について何か意見や質問等はないか。

○堤教育委員

参考資料に追加の提案。18 ページ小・中学校施設等の状況というところで、小中学校施設とありながら、小学校しか入っていない。今の計画でいえば現在の有明中学校は有明地域新設小学校になるため、外してはいけないデータであるので加えてほしい。

○出雲学校教育課長

はい、ありがとうございます。

○堤教育委員

一番大きな答申との変更点は、学校の数や配置もあるが、「地域性」という文言が入ってきているところ。答申案が公表された後に、私は何名か町民の方に意見としていただいたのは、福富小学校がなくなるという答申案について、審議会の中で地域性について討論されなかったのか、ということであった。そうではなく、後半の4回ほどの会議で、地域性ということにはさんざん議論をされて、その結論として、地域性よりもクラス替えがあるような環境を優先し、答申の中には「地域性」という言葉をあえて外されている。審議会委員さんも「地域性」についてしっかり議論はされていたということを確認しておくべきではないかと思う。その後の状況変化の中で、こういう案になってきたわけであるが、一つは設置について、3校案というのを町長で責任を取られるということと、もう一つ地域性という言葉盛り込んでいくことについて、町長と教育委員会場でこの場でしっかり合意形成を図っていくことを確認しておきたい。

○田島町長

町では総合計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略、国土利用計画を策定している。そういったまちづくりというものがあるが、今回学校再編においても学校だけでなくまちづくりの観点からも議論をされてきたところ。私も最上位計画である総合計画、また国土利用計画を学校再編においてしっかり考慮しなければならぬと考えていた。

また、小学生は中学生よりも地域に密着しており、浮立など地域の伝統を子どもと大人のコミュニティの中で受け継いでいる歴史がある。そういったものが例えば1校になると無くなってしまわないか。合わせて、私の町長としての公約の一番初めにコミュニティ・スクールを打ち出していた。江口前教育長に取り組んでいただき、今は小中学校、いろんなところで確立してきたので、学校と保護者さんだけでなくプラスワンの地域の関係が薄れないようにしていかなければ、と思っている。

それから、国土利用計画の中でも旧 3 地域でゾーニングをされている。合併はしたが地域バランスを考えたところで白石町を発展させていかなければならない、ということでまちづくりの観点を含んだところでの検討をしていただき、今日に至っている。

60年近く前になるが、私が中学生の時、白石中学校、有明中学校が統合された。当時は1学年15クラスあるマンモス校であったと記憶している。そんな60年の歴史があった中学校が1つになるわけであるが、小学校についても段階を踏んで進めていかなければ、と思っている。

もう1つは社会の変化というもので、答申の後に有明海沿岸道路が完成し、人の流れが変わった。交流人口もさることながら定住人口も増えてきたような気がする。また、子育て世帯は移住するときに、通勤や社会活動に利便性のいいところに住みたいと思うだろうが、学校はどこにあるかというのも気にされる。そういうところから、やはり地域バランスも十分に考慮していかなければならない。有明海沿岸道路についても、現在は福富インターまでしか開通していないが、県の話によると、今後は有明地区の方から開通していくと聞いている。

また、環有明海の地域開発・地域振興が今後どんどん進んでいくという話もある。少し違う話だが、有明海沿岸で観光協会を持たないのは白石町だけなので、これを早く設立しなければならないと思っている。有明海沿岸が今後どうなっていくかわからない時代なので、再編計画において人口減少を憂いているが、町長としては町の活性化のために人口増を目的にしていかなければならないという想いがある。せめて減少ではなく、微減に留められるよう取り組んでいきたい。将来1校になることも見据える、という文言になっており、それが50年先か100年先かはわからないが、10年、15年後という考えは毛頭ない。ぜひとも地域全体で盛り上げていきたい。

#### ○松尾教育委員

まちづくりという観点から3校案となったのはいいことだと思う。ただ、白石・有明地域の統合された学校が、統合する前の方が良かったよね、と言われないうちに、福富小学校も含めて、より質の高い教育を目指していただきたい。

#### ○川崎教育委員

やはり子供たちの教育環境が向上するということを一番に考えていただきたいと思う。特別支援教育や複式学級については、今後の変動を見ながら柔軟に、そして充実した体制を整えてほしいと感じている。3校にすることで複式学級の発生も見込んでいると思う。その期間でも子供たちが、3校だったけど自分たちはここで学習できてよかった、と思える環境を大人が作っていかなく

ればならない。その時の状況に応じて、きちんと見定められるようにしていけたらと思う。

#### ○堤教育委員

教育委員会の中でも平成30年ぐらいから話し合いを進めてきた。私もちょうど平成30年の2月に教育委員になったので、最初から参加しているのだが、再編審議会とか計画を立てていくときに、私がずっと言っていたのが、小中の計画をある程度一体性を持って取り組んでほしいということだった。というのは、やはりどうしても中学校の方が議論しやすいため、中学校が先行してしまう。そうすると、今の白石中学校の校舎を使用するということになっているが、後で小学校の計画がどうなるかによって、整合性が取れない部分が出てくるのではと危惧していたので、できるだけ一体化して扱うようお願いしていた。実際再編審議会の中でも、中学校を先に議論して、その後小学校を議論した後に、もう一回最後小学校の結論を踏まえて中学校に戻ったときに、それが問題ないかという確認の作業を入れていただいている。実際、中学校の計画が動き出したところで、小学校の計画が変わった形になっているので、そこが私の当初思い浮かべていたこととは違うところになってきている。

最初に小学校3校案が出ていれば、白石中学校の校舎を白石地域の小学校とするという選択肢があったと思うが、基本的にその選択肢は2校案ということではなくなっている。感情的に言えば町の中心部と言えば白石地域になってしまうので、福富地域・有明地域の方に比べると、白石地域の方は地域性について意見されることはあまりないと思う。なので、現白石中学校の校舎を町全体の中学校として使うことに対し、あまり意見は出てこなかった。計画の変更により、白石地域小学校の校舎として現白石中学校の校舎を使うという選択肢をなくしていることについては、地域感情という点で少し配慮をしないといけないのかなと思う。

#### ○北村教育長

小学校は中学校に比べて段違いに地域コミュニティの核としての性質が強いとつくづく思う。見守り隊等を組織し、登下校の子供たちを温かく見守っていただいているところがある。「小学生の登下校の姿を見るだけで元気が出る」というお年寄りの声もある。また、白石町は子供たちの地域行事の参加率が国の2倍強、県の1.5倍ある。これを強みとして、もっと子供たちが地域に関わることを推し進める必要があると思う。コミュニティについては町長も公約と言われたが、今回北明小学校が文科省の表彰対象になった。県で1校。よかったなあと思う。これでもっと子供たちの教育は町にお任せではなく、地域で一緒になってや

りましょうと、地域も家庭も学校もそれぞれ役割をもって一緒にやっていきましょうと、強く出していかないと、今、昔にはなかった色んな子育ての課題が出てきているので、まさにひっきゃで、知恵を出し合いながら進めるというのがより必要かなと思う。

先ほど堤委員さんも、地域性のことを審議会で議論しなかったわけではないと言われていた。私も改めて議事録を見返したが、後半の4回くらいにはかなり出してもらっている。やっぱり近くにあった方が安心やもんね、とか、子どもの姿が見えた方がよかもんね、でも規模を考えるとクラス替えがあるような環境がよかもんね、とか。しかし、教育委員会の諮問が「規模・学級数・学校数・学校の位置」であるため、それに対しての答申を考えなければならないため、地域性のこともあるけど難しい、という意見が結構あると確認した。

それだけの議論をしていただいたが、決して答申がどうでもいいというわけではない。今後適正規模を下回る状況が出始める。これをどうするか、知恵を出し合って考えていかなければならない。合同学習、交流教育、あるいはオンライン授業、縦割りの指導等。こういうことをやりますのでかせしてくれんですか、とか、地域行事と一緒に学習を進めましょう、とか、そういうことを今まで以上に知恵を出し合って進めることになるかと思う。

#### ○堤教育委員

この計画は3校案だが、白石地域小学校は場所すら決まってない中での計画となる。そうすると、場所が決まっていないのに住民説明会はどうするのだとか、あるいは場所が決まった段階で計画を書き直すのか、おそらく今年度中に住民説明会を予定されているとすれば、場所がわからない中で住民説明会を行っても、結局場所が決まった段階でもう一度住民説明会を行わなければいけない。その点についてはどう考えているのか。

#### ○出雲学校教育課長

計画ではこの形で進めさせていただき、今後の事務的な部分でいうと、基本構想・基本計画において、小学校の位置、小学校をどういう形に作るかの具体的な図面のようなものを決めることになる。そこを決めるときに、住民の皆さんに、審議会のような形で入っていただいて方向性を出していければ、と考えている。

#### ○堤教育委員

場所が決まっていない中での住民説明会は非常に難しいと思うし、意見を言う側もそんな意見を言っているのか、お互い見えないところを掴みあっていく

ような感じになると思う。できれば決まった後もう一回説明会を行う必要があるのかと思う。

○出雲学校教育課長  
検討させていただく。

○北村教育長  
先ほど出していただいた件については、答申をいただいた時期から2年後退しているの、急がなければいけないと考えている。住民説明会で学校の位置についても出せればと思うが、時間的に難しい。

○田島町長  
やはり位置についても早く出さないと先に進まないとも思う。距離や中学校との関係、例えばだが、中学校と全然違うところにしたら通学路も別に作らなければならない。そういった色んな外的要因があってということで、ある程度の見込は早く示さなければいけないんじゃないかなと。

○出雲学校教育課長  
まずは答申とは違う計画になったということで、計画を説明させていただき、白石地域の小学校の位置が決まればまた説明会をするなり、どうするか考えたいと思う。

○北村教育長  
そのことについては皆さん気になっていると思う。小中との兼ね合い、あるいは施設の共有、それから多くの人を町に呼び込むための施設、そういうことも考えなければいけない。ポツンポツンあるよりも。例えば共有施設があると、県外からでも大きな大会や行事に人を呼びこめる。また、内部でも、教育活動が内容、あるいは集団ごとに同時展開ができる。そういうことが考えられるので、おのずと場所についてはだいたいところで収斂していくのではないかな。ポツンとしたらまちづくりに反する。

○出雲学校教育課長  
新年度に予算をつけてその辺りを早々に詰めていきたいと思う。

○堤教育委員  
スポーツ庁の方からは、体育館等の社会的教育施設をいかに複合的に扱うかということがかなり議論されていて、例えば事例としてあるのが、体育館は学校

と隣接して一帯の地域にあるけれども、体育館は首長部局側、あるいは生涯学習課側に移管され、指定管理者が入り、出入りは学校からもできるが、学校施設に勝手に入れないような仕切りを設けて、体育の授業は使える。例えば白石中学校でいうと、社会体育館が道を挟んであるので隣接しているとは言えないが、あれを自由に行き来できる社会教育施設、というような使い方をされているので、財政も厳しくなっている中、そういう視点も考えてもいいのではないか。例えば、プールなんかはいらないよね、と言われる先生方も多く、30年前のたくさん校舎ができていた頃の常識で作ってしまうと、10年後にはこんなものはいらないよね、とならないようにしていかないといけないので、その辺りも含めてご検討いただきたい。

○田島町長

貴重なご意見ありがとうございました。本日協議した内容をもとに、最終的には教育委員会でさらにご協議いただき、白石町立白石小学校再編計画案を作成し、決定していただければと思う。どうぞ白石町の子供たちにとってよりよい再編計画にしていいただければと思う。

続いての議題、その他の項に移る。教育委員会や事務局から何かないか。

(なしとの声)

それでは、本日予定した議題は全て終了したため、司会を事務局に戻す。

○山下財政課長補佐

ありがとうございました。それでは、本日の議事は終了したため、これをもって令和4年度第1回白石町総合教育会議を閉会とする。